



# やらまいか

クラブテーマ：参加して、行動して、ロータリーを楽しむ Let's Enjoy Rotary

会長/大木健市 幹事/林 博宣 会報委員会/中西弘徳・宇野秀幸 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所  
事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 FAX0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第29回 通算1513回 平成30年2月6日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	1/23 修正出席率
		66名	39名	63.9%	100%

ゲスト：(株)フェニックス 代表取締役 浜武恭生さん 営業部 廣瀬教志さん ビジター：(なし)

## ★会長あいさつ

### 大木健市会長



こんにちは、先週の土曜日の合同節分例でした。2月4日は立春で、春の気が立つと言う意味で、冬と春の分か

れ目の日でありました。立春より新しい年が始まると言われております。皆様にとって、良い一年になります様にご祈念申し上げます。

本日は、フェニックス社長の浜武様より卓話を頂きます。大変楽しみにしております。

今から4年前のこの時期に、大沢パスト会長より「2020年東京オリンピックと日本バスケット界の課題」ということで卓話をして頂きました。当時の会報を読み返しますと、4年前は日本リーグとbjリーグの2つのリーグが存在しているを大変憂いておられました。その時の国際バスケット連盟の会長より「日本のバスケット界にトップリーグが2つ存在する現状では、2020年の東京オリンピック開催国と言えども、出場権を与えることは出来ない」と言われたそうです。

本日は、その後の日本のバスケット界の変化も含めて、お話を頂戴したいと思っています。

三遠ネオフェニックスには、豊川東部中学出身で、身長206cm、体重112kg、No.8の太田敦也選手がいます。皆さんで、しっかりと応援をしていきたいと思っています。

## ★幹事報告

### 林 博宣幹事

例会臨時変更のお知らせ  
東三河分区IMに関するお知らせ

## ★外部講師の卓話

「バスケットボールを切り口としたスポーツの街づくりへの挑戦」

### (株)フェニックス 浜武恭生氏



こんにちは。今日のタイトルは、「バスケットボールを切り口としたスポーツの街づくりへの挑戦」にしました。愛知県は、

野球、サッカー、バスケット、ハンドボール、バレー、卓球など色々なスポーツがあります。そんな中で、勝ち負けは当然大事ですが、皆様にとって我々の存在は、どんな存在であるべきかと思っています。2013年にフェニックスに来て、今年5年になります。丁度20年前に九州から豊川に来ました。大沢茂樹さんが当時専務で面接をして頂き、オーエスジーに入りました。バスケットで、このようなご縁があって、嬉しく思っています。

オーエスジーに入って、開発をやっていました。私は営業をやったことはありません。ずっと野球をやっていました。バスケットのル

ールは、今は知っていますが、当時は知りませんでした。2013年、当時、私は海外を希望しており、南アジアに行きたいという希望をしていましたが、去年お亡くなりになった大沢会長に、好きにやれと言われたのがキッカケでした。私はエンジニアでしたので、小数点の右0.001 とかの



世界で生きてきました。金型を加工する工具を開発して、自動車メーカー、航空機メーカー、スマートホンなどのユーザーさんに出向き営業と一緒に廻ったのち、マーケティングを経験し、バスケットの世界に入りました。

5年前、前任が営業畑で、私がエンジニアでバスケも知らないと言うと、何をしに来たの？と冗談交じりに言われました。そんな中で今日はバスケットの勝ち負けというよりは、このフェニックスというコンテンツをどのように活かして、街づくりをこれからしていきたいかという事をお話させて頂きたいと思えます。

フェニックスの試合会場に来られた方もあると思います。今年の試合の様子をまず見て下さい。

フェニックスは、今年プロ化をして10年目になります。私が来た5年前は、OSGフェニックスとして、ジャンパー、Tシャツ、グッズを無料で配り、チケットも無料で配っていました。私は、この「OSG」というロゴを消さない限り、OSGのチームという認識しかなく、目指している地域のチームにはならないと思いました。この認識を消すために、愛知ダービーではTシャツを来場者全員に配り地域のチームとして応援して頂けるように企画しましたが、小さなお子さんからご高齢の方まで、地域みんなでチームを応援する形をつくることを念頭に活動をしています。

フェニックスの歴史は、OSGとしては1964年に創設しまして今年53年目です。転機は2008年、bjリーグに転入して、名称も浜松・東三河フェニックスになりました。全国のプロスポーツで唯一、県をまたいで活動しているチームです。日本ハムファイターズさんは、東京ドームと札幌ドームなどのフランチャイズがありますが、我々の活動は、常に豊橋を

中心とした東三河、浜松を中心とした遠州地域を活動拠点にしています。

そんな中で、当時の川淵三郎チェアマンから、Bリーグ発足の際に呼ばれました。君たちは県をまたいでいる、どちらかをホームタウンに決めなければ2部に落とすと言われました。それは、どこを軸に活動しているかが薄れていくという事でした。非常に悩みました。1ヶ月後ぐらいに回答をしないと2部に落ちるというプレッシャーの期間でした。中長期的に活動するならどこが良いのか、現状の経営基盤だとどうすべきかなど色々と考えました。浜松や豊川も考えました。最終的には豊橋の佐原市長にお願いをして、ホームタウン、ホームアリーナを豊橋にしたいとお願いをしました。地域名は「三遠」ですが、活動のホームタウンは豊橋、ホームアリーナは豊橋総合体育館という形で昨年スタートしました。

多くの方にバスケットボールのルールを知らないとよく言われます。世界的に見るとサッカーが一番多いと思いますが、実質はバスケットの競技人口が一番多いのです。4.5億人ぐらいいると言われていています。テニスも増えています。バスケが世界で一番多いと言われていています。国内では、Jリーグが出来て今年で26年になりますので、サッカーは96万人。バスケットは62万人。この62万人の8割が大学生以下です。バスケットボール協会に登録している人数で、豊橋に約3千人います。ただ、草バスケ、仕事の合間にバスケをする人、実業団の大会に出る人、これらの人は登録されていません。豊橋には、それらの人が1,400人ぐらいいます。バスケットボール協会にカウントされていません。これを全国的に換算すると100万人ぐらいとなり、バスケットは、国内でも競技人口が多いと思います。また男女比から見ると、野球やサッカーは男性9割、女性1割です。バスケットは、6対4です。現在、バスケットスクールを岡崎、豊橋、豊川、浜松で、幼稚園年長から中学3年まで500名のお子さんを預かっていますが、3割が女子です。非常に男女比が偏っていないので、競技人口が多いと考えています。

バスケットは、ゲーム性が非常に面白いと思います。野球やサッカーは1点の重みと言われます。バスケットは、24秒、8秒、3秒と色々と秒でルールがあります。引き分けが

ありません。勝敗が着くまでやります。攻撃と守備を100回以上繰り返します。非常に激しいスポーツです。選手の入替えが自由、バスケットは約2時間で終わるので時間が読めます。天候に左右されません。こんなバスケットの面白さも私は感じております。

豊川市出身の太田敦也選手33歳、2020年が恐らく最後のオリンピックになると思いますので、非常に気合が入っています。チームの選手は月曜、火曜日がオフになるのですが、彼は日本代表合宿に行き、ほとんど休みがありません。しかもセンターというポジションです。センターは、ゴール下の番人と呼ばれる、非常に重要なポジションです。もう一人、高田真希さんという女子のセンターで出身が豊橋市です。こんな日本を代表するセンターポジションの2人が、この豊川・豊橋にいます。彼女も28歳で、東京オリンピックを目指して頑張っています。女子の方がメダルをとれる可能性があると言われていますが男子は、1976年モントリオール以来出ていません。ですので、オリンピックに出ないと、なかなか皆さんにメジャースポーツとは認めてもらえません。

ですがこんなすごい選手が地元にいる、バスケットの勝ち負けも大事だけど、街づくりという観点で我々はやっています。

Bリーグは、東地区、中地区、西地区あります。愛知県には我々の三遠ネオフェニックス、アイシン精機が母体のシーホース三河、三菱電機が母体の名古屋ダイヤモンドドルフィンズの3チームが1部です。2部には、豊田通商のFイーグルス名古屋。3部には豊田合成があります。女子はデンソー、トヨタ自動車のチームがあります。全部で愛知県には12チームあり、バスケット王国でもあります。

先週の愛知ダービー、今週末は三河ダービーということで、愛知県のバスケットのレベルと認知を上げようという事で、色々動いたりしています。今年の9月にアーリーカップ（野球で言うのオープン戦）があり、今回それを誘致し豊橋総合体育館で開催します。愛知県の3チームと2部の1チーム、東京の2チームで、フジテレビ主催で行われます。この豊川・豊橋・東三河のスポーツとしてのメディアコンテンツとしても、これからやっていきたいと考えています。

フェニックスの活動理念は、日本一のチーム作りと言われそうですが、私たちは、この

コンテンツを皆さんにどのように活かして欲しいかという事が大事だと思っています。活力のある街にならないと、当然、チケットも買って頂けない、仕事にメリハリがない。バスケットというスポーツを通じて、我々はまずプロとして、誇りを持って活動をします。そして、子ども達がバスケットの選手になりたいと思うことに寄与する必要があります。また、アジアや世界にチャレンジする環境を作ります。

今、豊橋総合体育館の集客に困っています。1年間、お客さんにアンケートを取りました。1番に言われたのが、「遠い」でした。それでシャトルバスをうちから出しています。豊橋総合体育館は港にありますので、すごく風が強いです。小学生・中学生・高校生が自転車で来るのも、なかなかキツイです。シャトルバスがあっても、環境が100%良くはありません。ですので、豊橋のアーリーナの環境を良くすることを市と共に進めています。

プロのトップ選手だけでなく、この4月にU15のチームを立ち上げます。2020年には18歳のユースチームです。昨年、初めてオーストラリアに遠征に行きました。海外にチャレンジする環境を作ることも我々の責任だと思っています。バスケットを手段として交流をしていくキッカケも作っており、スポーツサイエンスも取り入れています。今、サイエンスがかなり進化をしており、子どもさんの手首にある測定器をはめると、身長が何センチになるか分かるということでした。今は普通に分かります。今は、その子どもさんが、早熟性なのか、後から伸びるかという事も分かります。妊婦さんが使うエコーなどをモバイル化して、骨密度が分かるようになっていきます。

バスケットの会社ではありますが、野球にとって必要なデータ、サッカー、ハンドボール、バレーなども、これから測定をして、子どもさんをその体形に合う、才能に合うスポーツを選択できるような環境も将来作って行きたいと思っています。

では、具体的などうするか。ミスターフェニックスの大口選手は、現役20年目です。彼は、今年で引退をして、4月から浜松学院大学で監督をします。プロスポーツ界では、初めて大学に参入をします。トレーナーも送ります。栄養士もつけてと言う話もしています。プロがやっている環境を、そのまま大学に落

とします。通常の大学スポーツはずっと練習をしています。今のうちの選手もバスケしかやっていない選手ばかりです。でも、この先、引退した後はどうするのかということもあるので、そのような環境づくりもやっていきます。文武両道なので、当然、勉強もしていきます。練習時間は、プロと同じ練習時間で、2時間から3時間です。終わった後は、スクールの子供達に指導をします。コーチ・ライセンスも取らせます。選手でありながら、勉強もして、子供達に教えて、ライセンスを取って、留学、インターンもやります。この4年間で育った学生を、スポンサー企業様に、3年後には皆さんにご紹介できることをこれから始めます。バスケットを切り口として、勉強、語学、企業研修などもやっていきます。

我々は民間企業ですので、偉そうなことを言っても、しょせんバスケットだよねって言われます。去年、佐原市長に2つのお願いをしました。1つは、鹿島アントラーズのサッカースタジアムが、人口6万人の街で、スタジアムが3万人ぐらい入ります。なぜ、あの人口で、サッカースタジアムを作って3万人入るか、それは行政からアントラーズに出向して、行政の困りごとをアントラーズが解決をしている。そういうのをお願いして、市職員に出向していただきました。豊橋市では、民間に出向するのは初めての事だそうです。彼に、色々と市の困りごとを僕らが伺って解決できそうなところを解決するというをしています。

もう1つは、スポーツの街づくり課というのを作ってもらいました。スポーツ課は、教育部の中にあります。スポーツと教育は連携をしていそうで、なかなかそうではありません。そこで独立をすることによって、我々としては、スポーツ課にお願いをすると、市民協創部というところに伝わって、実際にGoが掛かる。今までは、スポーツ課から教育部でしたが、ジャッジの部分に離して欲しいということで、スポーツの街づくり課を作ってもらいました。ここで豊橋新アリーナの話をしたり、スポーツのまちづくりに関するをしています。

行政と考えるフェニックスの活用方法としては、①市民にフェニックスの勝敗など普段の生活の言葉にするための意識付けを行政と一緒にやっていきたい。②フェニックスが勝ったら、ブーストショップで割引やファンが

楽しめる場所や特典をつくる。③スポーツをする機会を増やす。④地域の社会環境の改善。小学校や中学校の部活動などのサポート。行政と様々な取り組みを行っています。イベントとコラボして、人の交流を広げています。豊橋市内の小中学校の先生にスポーツ前にけがをしない準備運動の仕方などの指導をしています。これからDVDを作って配布をする予定です。そこに選手やチアが登場すると、それを見た子どもさんがフェニックスの選手が出てくるねと見てくれて、一緒に怪我をしない体づくりが出来るようになります。マスコットキャラクターのダンカーが書いている通信を、月一で豊橋市内の保育園から高校までビラを配ってもらい、バスケットの面白さを子どもさん通じてPRしています。他の東三河の5市にもこれから展開をしています。

これらの活動を更に大きくするための起爆剤としているのが今予定している新豊橋のアリーナです。経産省、スポーツ庁のモデルケースになっています。単純にアリーナを作るのではなく、駅からの回遊性、人が県内外から集まるので、地域の活性化、スポーツ文化の振興、産業の進展を考えて、どんなアリーナを作って、どんな動線を結んで、東三河のシンボルとなるように、色んな方が来るようなアリーナ出来ないかと話をしています。年間ホームゲーム30試合しか使えないので、あとの335日をどのように使うかを考えないといけません。我々のためだけに作るアリーナではありません。豊橋の方、東三河の方が、色んなコンベンションを行ったり、コンサートをやったり、プロスポーツをやったりできる、365日常に人が集まるような、そんな環境を作ることが必要だと思っています。

私は九州出身です。豊川は豊川稲荷があります。田原はサーフィンがあります。蒲郡や新城には温泉もあります。非常に資源が豊富です。こういった資源を多くの方に知って貰い、使って頂けるようなスポーツ・ツーリズムが出来ないかを考えています。我々のファン、相手チームのファンの方が、豊川稲荷に行く、温泉に行く、サーフィンをするなどしてもらおう。東三河で我々は唯一のプロチームなので、そういうことをバスケットを切り口として知っていただき、会場以外には足を運んでいただく、そんな事をやっていきたいと思えます。バスケットが本業ではありませんが、このバスケットを切り口として皆様にと

って必要になる存在になること、地域の皆様と共に、笑顔で活力のある街にするために、これからも全力でやっていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。ご清聴ありがとうございます。

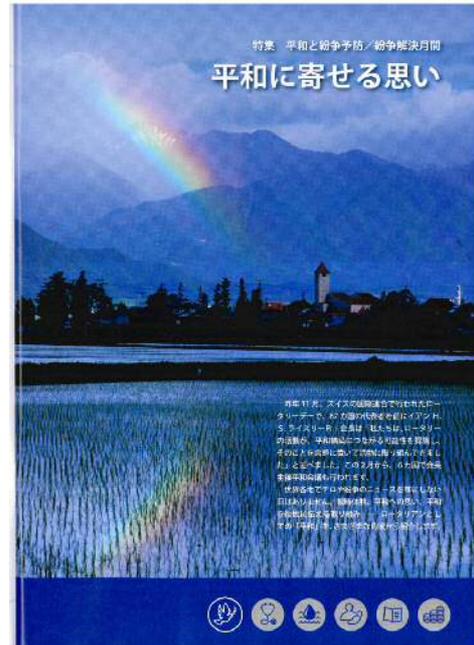
三遠ネオフェニックス

<https://www.neophoenix.jp/>

★ニコニコボックス

- 大沢茂樹会員 浜武社長の卓話を宜しく
- 星川佳伸会員 誕生日を祝って頂き
- 伊藤正幸会員 //
- 柴田浩志会員 //
- 杉浦元保会員 事業所創業を祝って頂き
- 高桑 耐会員 結婚記念日を祝って頂き
- 熊澤克人会員 //
- 加藤雅美会員 //
- 岩瀬靖宏会員 入会と結婚を祝って頂き

ロータリーの友2月号でも特集記事が掲載され、11月の当クラブの豊川市平和公園での桜の植樹式が特集号のページに掲載されました。



★ロータリーニュース

2月平和と紛争予防／紛争解決月間

2014年10月RI理事会は、2月を重点分野：「平和と紛争予防／紛争解決月間」としました。紛争予防と仲裁に関する、若者（将来にリーダーとなることが望まれる人）を対象とした研修の実施、紛争地域における平和構築の支援、平和と紛争予防／紛争解決に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のための奨学金支援を強調する月間です。

世界理解と平和週間(2月23日～3月1日)

(World Understanding and Peace Week)

1905年2月23日は、ロータリーの創始者・ポール・ハリスが、友人3人と最初に会合をもった日です。この2月23日を祝う創立記念日は、「世界理解と平和の日」(World Understanding and Peace Day)として遵守されます。この日、各クラブは、国際理解、友情、平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければなりません。理事会は、この2月23日に始まる1週間を「世界理解と平和週間」と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することを決議しています。



会報担当：中西弘徳会員・宇野秀幸会員